

創刊110周年記念

誇れるふるさと

24地区リレー

〈vol.19〉

〈鵜の島① 特徴〉

宇部市の中央南端部に位置する鵜の島地区。南は港湾と工場群、北は丘陵地帯で、東は新川地区、西は藤山地区と接しており、市内中心部と西部をつなぐ国道190号、山大病院通り、産業道路と市内交通の大動脈が走る。面積は2.33平方キロと市内では5番目に小さいが、買い物拠点コンパクトにまとまり、飲食店も多く、山口大医学部付属病院も近くにあるなど、住環境は整っている。



「鵜の島」の由来とされる小島の名残。一段高くなっているのが分かる（鵜の島町で）

緩やかな傾斜に名残



基本データ

- 面積2.33平方キロ（20位）
- 世帯数2092世帯

鵜の島ふれあいセンター、鵜ノ島小のあるエリアはもともと、宇部岬から延びた砂州で瀬戸内海と区切られた遠浅の入り江だった。藤山との境にある鍋倉山と助田の間にある堤防を造った干拓事業でできたのが鵜ノ島開作で、現在の鵜の島地区がつくられた。砂州の上だった上町地区の海拔は4

- 人口3792人（16位）
（男性1785人、女性2007人）
- 高齢化率37.34%
- 小学校児童数128人
- ※世帯数などは2022年4月1日現在

かつての「島」産業道路の砂利石に

も分かる。地区内に「浜町、小「松原」町など、海岸に関する名前の地名が多いのも納得だ。

鵜の島の由来は、入り江の小島が、ウが羽を休める場所だったという説が有力。市立図書館付設資料館資料集の中に「古（いにしえ）の海島にて鵜の群集せしによりて其（そ）の名ありき」というくだりもある。この「鵜の島」の跡は、地名にも残っており、鵜の島町4の辺りとされる。

かな傾斜で周囲より約1メートル高くなっており、その場所だと分かる。「うべ歴史発見」によると、島の面積は6000平方メートルで、1933年ごろから掘り崩され、産業道路を造る時の砂利石になったという。

JR宇部線の小松原通踏切から北へ50メートルほど、食堂の尾張屋に面する小さな路地を入ると、緩や

地区「コミュニティー推進協議会」の藤田重治会長は、人の温かさを地域の良さに挙げる。「小さな地域だけに人同士がつながりやすく、互いを大切にしっている。地区組織も結束が強く、コロナ禍で縮小しつつも地域行事を続けてきた。住みやすい鵜の島に子どもたちが帰ってくるように、地域活動を続けたい」と語る。